平成21年3月11日
国土交通省北陸地方整備局
金沢河川国道事務所

「第1回 梯川水系有識者委員会」議事要旨

平成21年3月11日(水)に、小松市内で「第1回梯川水系有識者委員会」が開催されました。委員会では名古屋大学大学院教授辻本委員が委員長に選出され、今後の委員会の進め方、梯川の現状と課題に関する審議が行われました。議事要旨は次の通りです。

◇出席者:10名(敬称略・専門分野別五十音順)

氏名	専門分野	所属
鈴木 洋之	河川工学	石川工業高等専門学校准教授
辻本 哲郎	河川工学	名古屋大学大学院教授 梯川リバーカウンセラー
佐野 修	自然環境(魚介類)	石川県自然史資料館 石川県淡水魚類研究会代表
竹田 伸一	自然環境(鳥類)	日本野鳥の会石川支部事務局長
古池 博	自然環境(植物)	石川県自然史センター専務理事 石川地域植物研究会会長
関戸 信次	文化財	小松市文化財調査委員長
村島 和男	農業水利	石川県立大学教授
西村 徹 (代理:小松副市長 村上 和仁)	地域社会	小松市長
酒井 悌次郎 (代理:能美副市長 高塚 善衛)	地域社会	能美市長
北出 隆一	水防	石川県消防協会会長 小松市消防団長

◇欠席者:2名(敬称略・専門分野別五十音順)

氏名	専門分野	所属
中村 浩二	自然環境(生態学)	金沢大学環日本海域環境研究センター長
池本 良子	水質	金沢大学教授

議事要旨

委員会の進め方について

【辻本委員長】

整備計画策定のプロセスの中での住民意見の聴集方法は、委員会に各分野の専門家がいたためアドバイスが出来る。また、住民意見については、委員会にフィードバックして頂きたい。

【村上氏(西村委員代理)】

市民に意見を求める際に、基本方針の内容を周知するべきではないか。

【佐野委員、古池委員、北出委員】

地域には様々な諸団体がいるため、各団体にヒアリング形式で意見を求めた方が良いのではないか。

河川整備基本方針、現状と課題について

【佐野委員】

ジュズカケハゼについて、前回の河川水辺の国勢調査で出現していたが、本来ため池にいる魚で、その後は生息が確認されておらず、一時的な移入魚と考えられるため、希少種として取り扱わないで頂きたい。

【辻本委員長、関戸委員】

住民は、洪水の時に八丁川や鍋谷川などの支川の流量が増加し、本川へ流入していくことに夜も眠れないほどの威圧感を感じている。河川の整備が進むにつれて安全度が少しずつ上がってくることはいいが、整備計画レベルでどの程度の安全度が確保されるかうまく示す必要がある。

【北出委員】

水防の観点から、梯川で引堤をすることによって洪水時の水位が下がっていることは実感している。引堤したときに河床が上昇することも心配されたが、梯川は土砂の流下が少なく河床の変化も少ない。このため引堤は非常に的を得た計画だと考えている。

【辻本委員長、竹田委員】

オオヨシキリなどの生息するヨシ等の保全等が書かれておりありがたい文章となっているが、放っておくと流れを妨げることになるため、洪水時の河川の水位を下げる目的からも伐採等も含めて保全方法を検討し委員会の場で示して頂きたい。